

# 福祉教育委員会

平成30年10月16日～18日

## 「健幸ポイント」事業

(福島県伊達市)

「健幸都市で元気な暮らし」を目指して、日本郵便と連携し、スマートフォンを持つ40歳以上の市民のうち千人に、歩数や健康教室等の参加に応じてポイントが与えられ、体組成計が商品券のどちらかが当たる。日本郵便が体組成計を郵便局に設置し、体重データ等の閲覧ができる仕組みになっている。また、毎月健康に関する情報が利用者にかかる仕組みになっているとのことであった。

## 角館重要伝統的建造物群保存地区

(秋田県仙北市)

角館の城下町は、天正18年戸沢氏が築城したのが始まり。元和6年に現在の武家屋敷が形成され、昭和51年に重伝建第1号で選定された。城下町は道幅も広く、黒塗りの板塀も統一されて印象深く、敷地内にはもみの木やし

ダレザクラが現在も大切にされている。

## あきた若者サポートステーション事業

(秋田県秋田市)

働くことに悩みを抱えている15歳から39歳までの若者に対し、キャリア・コンサルティングなどによる専門的な相談、訓練体制が充実していた。スタートしたばかりの本市の支援体制に生かしていきたい。

## 企業認定・表彰制度

仕事と子育てなどの両立支援に取り組む企業を、これまで155社認定・表彰し、子育てを社会全体で支える地域づくりを目指すとのことであった。



角館の武家屋敷通り

# 産業建設委員会

平成30年10月2日～4日

## 木質バイオマス発電施設

「エフオン白河」

(福島県白河市)

平成18年10月運転を開始した未利用材木質チップ(年間約12万トン)を使用し、最大1万1千500kWを発電する「エフオン白河」を視察した。

場内見学では、燃料サイロ・ボイラー棟・タービン棟等を実際に見、原料チップの搬入状況や稼働状況を聞いた。片丘に建設予定のバイオマス発電所の参考となった。

## 震災後の復興

(宮城県気仙沼市)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により大きな被害を受けた気仙沼市を訪問し、「震災後の復興状況」を視察した。やや高台だが、ここまで水が来たという市庁舎のロビーで災害時における議会対応と役割についての説明があった。発災後の1、2カ月を経過し混乱期を脱した時期から



宮城県気仙沼市

議会として取り組みを始め、毎月定例的に会議を開催し、平成28年4月には議会版震災対策マニュアルを作成したという。死者1千42人、行方不明者215人、被災家屋2万6千124棟等という未曾有の被害から、7年を経過し、震災前との比較で人口1万131人が減少したとのこと。その後市内の被害個所の現場に立ってみて巨大地震と津波の相乗作用がいかに大きかったか、肌で感じることで貴重な機会となった。今後の早い復興を望まざるにはいられなかった。